

# 祥しょう雲うん閣かく

たより vol.31

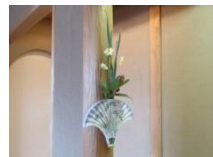
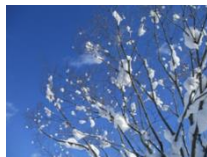


## 祥雲閣 からのお知らせ

新年あけましておめでとうございます。昨年はコロナ禍により、日常生活が一変してしまった中でようやく微かな光がさしてきたように思います。祥雲閣では、これまでと同様に皆様に安心してご来館いただけるよう、感染予防と拡散防止に細心の注意を払いながら開館してまいります。今年もどうぞ宜しくお願い致します。



祥雲閣では日曜日から金曜日は抹茶、土曜日は煎茶と様々な和菓子をお出ししています。立礼茶室では、テーブルと椅子があり、気軽にお茶とお菓子を楽しみお事ができます。



土曜日の煎茶提供に合わせて、清泉幽茗流清泉会による文人華道の席飾りをご覧いただけます。



祥雲閣の庭園では、春は桜、夏は新緑、秋は紅葉、冬は雪景色をご覧いただけます。松などの常緑樹は冬でも緑を保つことから縁起木として使われます。

「松樹千年翠」という掛軸があります。松は千年の間翠(緑)を保っているという意味で、春は気づかないが冬になり雪が積もると松の葉が美しい緑である事に気づく。日常の当たり前になっている事が本当はとても大切な事なのですとの言葉だそうです。

※諸説あります。

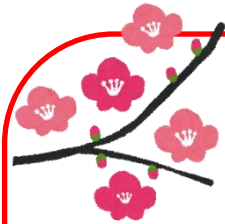


# 〇●〇お菓子の話し〇●〇

私たちの暮らしの中には、厄をはらったり、無病息災や子孫繁栄を願うさまざまな行事があります。その際に神様に供えられてきた菓子が現在の和菓子の原点と言われ、日本人の暮らしに欠かせないものになっています。

また、菓子の発展に茶の湯の文化は大きな影響を及ぼしました。室町から安土桃山時代にヨーロッパの文化や菓子が伝わり、茶の湯の文化を牽引した多くの茶人により、和菓子作りが推奨されました。織田信長は金平糖が好物で、花見で団子を食べる風習は豊臣秀吉が開いた茶会がはじまりと言われているそうです。

※諸説あります。



## 一月の菓子 「花びら餅」



宮中行事に由来する菓子で、明治時代に茶道裏千家の初釜で使われて以降、全国に知られるようになりました。宮中のおせち料理をもとにしていることから、丸い白い餅や求肥にピンク色の薄い餅と白味噌餡を置き、甘く煮たごぼうをのせて半円型に包んだ一年の始まりにふさわしい晴れやかな祝い菓子です。

## カレンダー

※ 休館日、○は煎茶提供日

2022年1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
						1			1	2	3	4	⑤			1	2	3	4	⑤
2	3	4	5	6	7	⑧	6	7	8	9	10	11	⑫	6	7	8	9	10	11	⑫
9	10	11	12	13	14	⑮	13	14	15	16	17	18	⑰	13	14	15	16	17	18	⑰
16	17	18	19	20	21	⑳	20	21	22	23	24	25	㉔	20	21	22	23	24	25	㉔
23	24	25	26	27	28	㉙	27	28						27	28	29	30	31		
30	31																			



## 大崎市祥雲閣

〒989-6105

大崎市古川福沼一丁目2-2

電話・FAX 0229-24-3385

◇JR古川駅から徒歩約20分

◇東北自動車道古川ICより

車で約10分

◇駐車場 有

開館時間 9:00~17:00 (最終入場16:30)

呈茶時間 10:00~16:00

抹茶・煎茶ともに菓子付500円

休館日 月曜日 (祝日の場合は翌日)

年末年始

(12月29日~1月3日)

大崎市祥雲閣

令和4年1月4日発行

〒989-6105

宮城県大崎市古川福沼一丁目2番2号

TEL・FAX 0229-24-3385